

CLOSE UP!



肝臓がんや肝硬変にならないために 広めたい、肝炎検査徹底の輪 ～肝疾患診療連携拠点病院としての役割～

～肝疾患診療連携拠点病院とは～

本院は、2008年4月30日に、県の肝疾患診療連携拠点病院に選定されました。現在、各都道府県に一カ所ずつ全国をあげて選定が進められています。ここを拠点に、肝疾患の診療に関わる一般的な医療情報の提供や、県内の専門医療機関などとの協議や情報収集、医療従事者や地域の方を対象とした研修会や講演会の開催、相談支援など、県を中心となって活動を始めています。徳島県内どこにいても、全国と同レベルの水準で医療提供できる体制を作るのが目標です。

肝臓疾患の現状と検査の重要性

徳島県は現在、肝臓がんでの死亡率が全国ワースト5位(肝疾患での死亡率・全国ワースト3位)とされています。早期に発見できれば、個人差はありますが、6～7割、中には9割改善する人もいます。早期発見が一番の予防であるにも関わらず、必要とされる人の20%程度しか、検査を受けていないのが現状です。肝炎ウイルスを持っている人は、そこから肝臓がんや肝硬変になる可能性があります。自分がウイルスを持っている体質なのか否か、一度採血検査して調べるだけで分かります。もしウイルスがあるなら、早い時期ほど、的確な処置で肝臓がんや肝硬変の予防ができます。たった一度の検査でOKなのです。60代くらいから、肝臓がんや肝硬変の発症が増えます。60代で発症の場合、発症まで約30年ほどの潜伏期間があるとなると、30代～の皆さんは特に「今」検査すべき時期です。ぜひ一度検査をして下さい。肝炎ウイルス検査は保健所にて無料で行われています。



説明は、
徳島県肝炎対策協議会 委員長
徳島大学病院 消化器移植外科長
島田光生(しまだ みつお)

■問い合わせ先
地域医療連携センター
Tel.088-633-9107

専門外にも肝疾患の知識を

肝疾患予防のためには、まず検査が第一です。その検査の必要性を認知してもらい、推進していくためには、皆さんとずっと身近な地域の医師や看護師、皆さんにとっての「かかりつけ医」の先生方に、専門外であっても肝疾患について、詳しく知っていただく必要があります。身近な立場から、皆さんへ検査の重要性をお話いただき、その治療に関する正しい処置を施していただける場面が増え、より県民の皆さんの健康増進へつながるはずです。そこで、地域の医師や看護師の皆さんへの情報提供や研修などを通して、レベルアップを図るお手伝いをしています。

今後の目標

拠点病院の目的は、国民的感染症であるウイルス性肝炎の予防、そしてそこからつながる肝臓がん、肝硬変の予防・減少です。徳島の肝疾患に対する知識や医療を全国レベルに引き上げ、肝疾患の専門家はもちろん、専門外の医療従事者にもより認識を持ていただけるよう、少しでも多くの皆さんが検査を受けたり、正しい処置や治療を受けていただけるように、全国の連携病院や県内にて、研修や協力などを積極的に行っていきます。今後、忙しい方にも検査を容易に受けていただけるよう、地域巡回して検査を実施するなど、様々な方法を検討し充実を図っていきたいと思っています。